

8. 地域とつながる「子育て」&「里親制度」～ママからファミサポへ、ファミサポから里親へ～

(応募チーム：チャレンジ中野！Grow Happy Family&Community（東京都中野区）)

(評価)

応募チームは里親の経験から出発して、家庭養護制度の抱える構造的な問題と児童福祉法の改正で中野区が児童相談所を設置していきたいとの意向を視野にいれて、里親経験者、働くママ、セラピスト、研究者を含む幅広いメンバーで編成されている。

これまで日本では数少なかった里親の充実のために、中野区でファミリーサポート制度（通称ファミサポ）と児童相談所が同じ自治体の所管になる機会をとらえて、ママからファミサポ、ファミサポから里親へと、地域での子育て支援が連続的につながりうることに着目して地域での里親の認知向上と育成、子育て支援の一体的充実のための仕組みの応募に至ったことを高く評価する。このことは社会的養護と一般の子育て支援の心理的制度的な障壁を低くすることにもつながるものであり、画期的な取組に育つ要素も含まれている。

一方、児童福祉法の改正で特別区も児童相談所を設置できることになった中野区では、この機会をとらえて、より地域に近づいた姿で児童相談所を設置したいという考えのもと、応募された市民チームとよく連携して、オープンデータ以外のデータ提供や子育てにまつわる諸施策の解説も含めて丁寧に対応してきたことも高く評価したい。

(アドバイス)

(1) ファミサポと里親を視野にいれた独自の自主研修

子供を家庭的な環境で生育するという点ではファミサポも里親も連続性があるという視点で、ファミリーポーターと里親の子育て支援の経験を共有して、共通点と相違点を洗い出し、ファミサポから里親に円滑に移行できる心理的経済的な壁を低くするため、所管が同じになるのを機会に双方の研修の連続性に着目した独自の自主研修を自ら手がけることを検討されてはどうでしょうか。

この研修で里親制度に理解を深めるためにも、相違点でいえば、里親の場合、アイデア応募用紙に指摘があるような「真実告知」が子どもの最善の利益に適うということをしっかり実例を踏まえて入れていくことが一案かと思います。こうした経験を生かして、良いところを自治体が行う研修にも提言もしてはどうか。

さらに、この独自研修の教材の公開をウェブサイト上で行って、広く社会にファミサポ、里親および連続性を知ってもらうことが重要だと思います。これが次のファミサポ予備軍、里親予備軍の開拓にもなるかと思っています。またこのような幅広いつながりは子供を育てるコミュニティの形成による社会的セーフティネットにも有益であると考えられます。

(2) 社会的養護制度の充実に向けた活動の長期的な展開

社会的養護制度全体の中で、今回の里親育成アイデアの位置づけを明確にしておくことが重要だと思います。これによって、チームとしての将来の活動の見取り図が得られます。社会的養護制度には、児童相談所（その一部の一時保護所）、児童養護施設、乳児院、里親、など多くの種類の制度がありますが、子供の健全な養育といった視点でそれぞれそれぞれの活動の見直しなどについても現場の里親の経験から提言をしていくなどの活動も将来展開してほしいと思っています。

(3) 中野区への期待

2020 年に中野区が児童相談所を設置される計画とのことですが、このアイデアとの連携にとどまらず、今後さらに適切な市民の活動との連携やデジタル時代にふさわしいデータ提供方法の充実、子供に寄り添った福祉専門家の充実などに努めていただけたらと思います。なお、児童相談所が特別区でも開設されるのを機会に、子供の最終的な幸せを念頭において、市民と一緒にサービスを設計してみる、その際試案の試行錯誤を繰り返す、といったデザイン思考を取り入れた社会的養護の在り方も長期的な課題として検討されてはいかがでしょうか。